

令和2年度 江戸川区立新堀小学校 学校関係者評価 報告書

学校教育目標	進んで考え 学び合う子 心ゆたかで 思いやりのある子 健康で たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・子供が夢や希望の実現に向かって生き生きと活動する学校 ・最後までやり通し、自他を尊重し、何事にもチャレンジし、豊かな感性をもつ子供 ・子供に対しての情熱や向上心をもち続け、組織の一員として協働する教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果> 特別の教科としてスタートした道徳の指導法を研究し、授業改善を図ることにより、教師が指導法の基礎を身に付け、道徳の授業の充実を図れた。 組織的にゲストティーチャーを活用した授業を計画・実践し、外部の人材の教育力を生かしたカリキュラム・マネジメントを実現できた。</p> <p><課題> 子供が自ら学び続ける力をつけ、主体的・対話的で深い学びを実現することで、学力向上に向けた成果をあげることが課題である。 そのためには、生活習慣や学習規律等、基本的な力を確立させることが必要である。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携プログラムに基づいて授業を実施する。	小中連携を意識して授業づくりをした教師…90%以上	B	C	連携プログラムに基づいた授業は実施したが、中学との小中連携事業は実施できなかった。	B	今後の充実を期待する。	春江中学、春江小学校との新たな連携を築く。
	ゲストティーチャーを活用した本物の体験	ゲストティーチャーを活用した授業の充実 本物を直に感じることに児童の健全育成	全年齢がゲストティーチャーを招いて本物の授業を体験する。	本物の素晴らしい実感を味わった児童(感想による)90%以上。	B	A	実施できた授業は児童の心に残る授業となった。	A	コロナ禍での実施はとて有難い。今後も積極的に実施を。	全年齢で積極的に実施を目指す。
	美しいものに感動する豊かな感性の育成。	自主性に任せた様々な詩の暗唱の実施により、言葉の感性を高めるとともに意欲の向上を図る。	学校長による詩の暗唱(学期1回実施)。	合格児童80%以上。	A	A	2学期には全校児童が合格することができた。	A	全校児童が合格することはとても素晴らしい。	今後も継続する。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	ICT研究授業の実施、ICTアシスタントを活用した授業の実施。	全クラスがICTアシスタントを活用した授業を1回以上実施。	A	A	体育でのICT活用はとて有効であった。	A	今後もICTを積極的に活用してほしい。	アシスタント活用計画を作成する。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	校内委員会を月1回以上実施。年3回特別支援研修実施。	校内委員会による支援や研修が有効と感じる教員90%以上。	A	A	校内委員会のシステム作りができ、組織として、支援することができた。	A	まだまだ分からないことが多いので積極的に学校の取組を知らせてほしい。	ホームページの更なる充実を図る。
	日常的なOJTの充実	ミニ研修会を活用し、誰もが教える側と教えられる側を体験する研修の実現による教師力の向上	ミニ研修会5回以上実施。新採教員の全教員授業観察の実施	研修を有効だったと感じた教員90%以上。	B	A	日常に生かせる研修であった。可能な限り数を増やしていきたい。	B	若い先生が学べる場を積極的に作ってほしい。	OJTの組織化を図る。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	学習補習の実施。東京ベーンシットドリルを活用した補習の実施。	東京ベーンシットドリル診断テストで全年齢正答率10%UP。	A	B	全年齢でベーンシットドリルの正答率を10%UPを達成できた。	B	基礎学力の定着を図ってほしい。	ベーンシットドリルの更なる活用を図り、全年齢正答率80%以上をめざす。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学習の充実 ・学校図書館を使った授業の充実	図書館の蔵書の整理・分配比率を意識した本の選定、準備室の活用を実施する。探究的な学習を目的とした授業を各学年で1回以上実施する。	分配比率の向上(区の目標に近づける) 全年齢が学校図書館にて探究的な学習の授業を実施。100%	B	B	分配比率を意識した本の購入により比率向上を図れた。理科や社会科の分野の資料を増やしたり、新しいものに変えたりすることで、児童の情報活用力を高めることができた。	B	本を好きな児童を増やしてほしい。	分配比率向上。学校図書館の計画的に使用する。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	校内研究授業を体育で6回実施。中休みの校庭遊びの励行。	運動を好きな児童80%以上。 中休みの校庭遊び90%以上	B	A	体育の研究で運動好き児童を増やせた。外遊びを95%を目指した。	A	運動を好きな子を増やして更なる体力向上を図ってほしい。	授業研究を深める。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	職員室前にオリパラ資料設置。指導犬講話、手話ダンス体験等。	障害者理解やボランティア精神等の大切さを感じた児童80%以上	B	A	障害やボランティアについて児童の意識を高めることができた。	B	全ての学年で取り組んでほしい。	指導を継続する。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	研修の実施。教員同士による授業観察の実施。	外国語(活動)が楽しいと感じる児童80%以上	B	B	授業観察は一部の教員に偏ってしまっ。ALTとの連携は良かった。	B	楽しく話せる場にしてほしい。	研修計画を作成する。
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	自他を尊重する意識と態度を慎重する(道徳や特別活動等)必要に応じて他機関との連携を図る	不登校児童0人 いじめがないと感じる児童90%以上 他機関との連携の実施	A	B	様々な機関との連携をとることはできなかった。生活指導で継続的にいじめ・不登校を話していく。	B	今後も連携を深め、いじめ・不登校0を目指してほしい。	いじめ・不登校の情報交換の日常化を図る。
基本的な生活習慣の確立	知識・技能を習得し、活用する能力の育成	問題解決的な学習を取り入れ、自己学習力の定着を図る	問題提示の工夫、解決の見通し、振り返りの実施	自己学習力を身に付けたと感じる児童80%以上	B	C	自己学習力の定着には授業改善を常に意識して続けることが必要。	B	自ら学ぶ子を育成してほしい。	観察受業等で授業改善を図る。
	基本的な生活習慣と学習規律の確立	学校全体で共通したルールで指導に当たること、基本的な生活習慣や学習規律を確立する	学校全体の共通目標の設置。授業観察での具体的評価の実施	基本的な生活習慣や学習規律の確立の向上が図れた学級100%	A	B	共通の学習規律を作成できた。来年度は規律の更なる向上を図る。	B	家庭・地域の連携も必要。	共通理解のもと、全職員で全児童にあたる。
	家庭学習習慣の確立	家庭学習習慣の向上。	家庭学習キャンペーンの実施(学期1回)	各学年の家庭学習時間実施指導90%以上	A	C	家庭学習実施は学年により差が見られた。全年齢を目指す。	B	家庭・地域の連携が必要。	いろいろな場で問題提起する。
安全・安心な学校の実現	開かれた学校を推進する。	積極的な情報発信により、保護者・地域の方に学校の様子を知ってもらうことで連携を強める。	ホームページで学年の様子を月に2回以上発信する。	全年齢月2回以上情報発信100%	A	A	コロナ禍ではあったが、積極的に活動内容を発信することができた。	A	どんどん情報を発信してほしい。	定期的に情報発信する。
	安全指導・防災教育の充実	交通安全・SNS等の安全指導と避難訓練を中心とした防災教育の充実。学校応援団との連携。	各学年に応じた安全指導本番を意識した避難訓練の実施。	安全や防災に対する意識が高まった児童90%以上	A	B	児童の意識を高めるためには、継続指導と更なる工夫が必要。	B	継続して取り組んでほしい。	防災教育の機会を増やす。
	危機管理意識の向上と連携	報告・連絡・相談の徹底と、問題点の共有、職員集団の協力的体制の強化	報告・連絡・相談の徹底。緊急時の組織による対応。	緊急時の対応が組織的であると感じる保護者80%以上	A	A	常に報連相の声掛けを行い、意識することができた。	A	今後も組織で団結して対応してほしい。	常にできているか振り返りを行う。